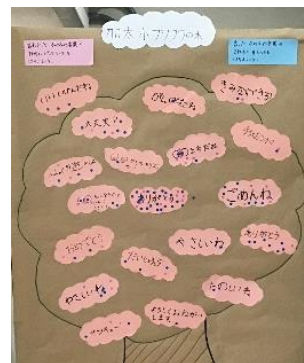




温かい言葉でいっぱいになろう

12月になり、寒さが厳しくなってきましたが、休み時間には、なわとびや鬼ごっこ、ブランコをする子どもたちの元気な声が運動場から聞こえてきます。

今、東階段前には、「加太小ふわふわの木」が貼られ、子どもたちが日々の学校生活で見つけた「ふわふわ言葉」が集められています。「ありがとう」「ごめんね」「だいじょうぶ」など、友だちから優しくしてもらったり、励ましてもらったりしたときの言葉がカードに書かれており、自分が言われたり周りの人に言ったりしたらシールを貼っていています。



子どもたちは、互に関わり合う中で、思いやり折り合いをつけたりする経験を重ねていきます。そうすることが、互いの気持ちを理解し、自分のことも人のことも大切にする気持ちを育むことにつながります。温かい言葉が増えると、言った人も言われた人も気持ちよく過ごせます。今後も様々な人との関わり合いを大切にしながら子どもたちを見守っていきたいと思います。

人権集会を行いました

先日、全校で「相手に分かるように自分の気持ちを伝える」ことをめあてに人権集会を行いました。困ったことがあっても相手に伝えられない場合、自分の意見を主張しすぎるため、言葉がきつくなってしまう場合、この2つの事例をもとにグループで話し合いました。そして、最後にどのような言い方をすれば自分の気持ちが伝えられるか気持ちのよい伝え方を考え、発表しました。子どもたちは、自分たちの日常生活を振り返りながら、自分も相手も気持ちよくなるためには優しい言い方をすることが大切であると感じたようです。



～児童のふり返りより（一部抜粋）～

- ・これからふわふわことばをつかいたいなとおもいました。
- ・いろんなことをまなんでよかった。やさしいことばをつかうことやじぶんのきもちをつたえることがたいせつだと思った。
- ・ことばがすごい力をもっていることがわかりました。
- ・やさしいことばでいうと、相手もいやじゃないし、自分もいやなきもちにならないからことばはたいせつなんだと思いました。
- ・強く言うのはだめだとあらためて思いました。強い口調にならないように言いたいと思いました。
- ・あやまるときとかは、次からのことも言うといいんだなと思いました。そして、言うときは、ちゃんと相手のことを考えて言いたいなと思いました。
- ・人権のことについてもっと知りたいと、きょうみをもちました。わたしも相手のことを考えて言いたいです。
- ・次からは、きつい言葉じゃなくてやさしい言葉をかけようと思いました。

関中学校区人権フォーラムが開催されました

12月6日に、関中・関小・加太小の児童生徒が集まり、関中学校区人権フォーラムが行われました。今年の人権フォーラムでは、「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」について考え、グループで意見を交流しました。6年生の子どもたちは、緊張気味でしたが、様々な人の考えを聞くことで、人による考えの違いを知るとともに、自分の考えを深めることができました。

～児童のふり返りより（一部抜粋）～

- ・改めて差別することはいけないことだと分かりました。いろんな意見があって共感することもあったし、違った意見もあるんだと思いました。
- ・あってはいけないと思うものもあった。そのすべてに共通していたのが「差別」だったので、差別がなくなると、あってはいけないちがいが減ると思いました。そのために率先してやっていきたいです。
- ・人によって「ちがい」についての考え方がちがうということが分かりました。人と話し合いをするときには、考え方のちがいも認め合っていっしょに考えていきたいです。
- ・自分の立場に置きかえて話し合うと、どんどん考えがはっきりしてきました。理由や意見がいっしょの人もいたけど、人にはいろいろな考えがあるのだなと、思いました。



12月の学校風景

「ハンドベル鈴」によるハンドベル演奏と劇、体力向上講師によるなわとび指導、認知症キッズサポーター養成講座など、様々な外部講師の方に来ていただき、学習しました。

ハンドベルの演奏をききました。



1・2年生 グー・チョキ・パーとびに挑戦！



ハンドベルで「きらきら星」の演奏をしました。



3・4・6年生 3人とびに挑戦！



「赤鼻のトナカイ」の劇を見ました。ひとりぼっちで寂しいルドルフが、サンタの言葉をきっかけに元気で勇気のあるルドルフに変わっていききました子どもたちは、ルドルフに寄り添いながら劇を見ていました。



4年生 認知症キッズサポーター養成講座を受講しました。認知症の症状や周りの私たちができることについて教えてもらいました。